

神奈川県立秦野曾屋高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 秦野曾屋高等学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	2024/4/22
開催場所	秦野曾屋高等学校 会議室
出席者	【委員】反町聰之、関野浩子、梶山孝夫、佐野典文、鳥海靖史、原 憲治、三浦義政、山田浩之、山口正樹 【事務局】佐藤道和、沼田伊里、甲斐 正、廣重直樹、大町友子、齋藤昂良、綿引俊哉、吉崎慎一郎、川島 聰 高橋秀文、橋本 誠、堀井拓洋
会議資料	令和6年度 秦野曾屋高等学校 第1回学校運営協議会
議事録	<p>◎校長あいさつ ◎委員の委嘱 ◎委員・職員の紹介 ◎議事録HP公開についての承諾確認 ◎会長互選、これより運営は会長 ◎会長挨拶:学校が当面する様々な課題にこの委員会において、学校活性化、教員のモチベーションアップのヒントを提供できればと考えている。ご協力をお願いしたい。 ◎本校概要説明 校長より: ・学校運営協議会の仕組みに関する変更。学校運営協議会の委員である有識者2名(反町委員・関野委員)により、第三者評価を実施することとする。神奈川県立学校のコミュニティ・スクールの手引に関する説明、学校教育計画、学校のミッション、学校教育目標の説明。 ・計画策定時点での課題については各総括教諭より報告させていただきたい。 ・4年間の目標と主な方策について、新学習指導要領の完全実施・ICT活用・地域連携・PTA活動等について盛り込んだ。 ・学校評価報告書について:業務アシスタントの増員(2名体制)、業務サポーターの雇用(1名)、全県立高校普通教室への電子黒板(ChromeOS)の導入について ◎会長:学校運営協議会の役割が拡充された。これまででは第三者評価というこの会議以外にて行っており、それがこの会議の役割の一部となった。協議事項として、後ほど委員の方々より意見をいただきたい。 ◎学校評価報告書実施結果について ・学校教育計画「4年間の目標」に対する取り組みの達成度評価総括表: 副校長より →すべての項目に対して○(60~80%)とした。 ◎会長:課題意識をもった△があると尚良いか。 ◎学校評価報告書について各グループより ・学校予算の執行に関する説明:事務長より(電力価格高騰への対応、図書整備費が倍以上に(図書等の拡充) ・学習支援G:スタディサプリングリッシュ導入、授業力推進重点校の3年目の取り組み ・生徒会支援G:入部率現時点で53%程度、部活動実績・学校行事の開催予定・挨拶運動(6月参加予定) ・生活支援G:グループ名称の変更、本校生徒の特徴をふまえ、心のサポートに重点を置くグループとしていく。 ・進路支援G:「自立への道」冊子配付、昨年度1~3年スタディサプリ確認テストを実施→1年スタディサポート、2年業者テストの実施 ・広報特色・情報G:第1回学校説明会午前・昼・午後の3回行う。学校HPについて:総合的なyoutubeの時間というバナーを設置し、HPの充実をはかっている。情報について:ネットワークの混雑解消が今後の課題 ・管理運営G:防災体制、教育の充実、避難訓練・防災備品購入(ポップアップテント27基)、ふれあい美化清掃については一般生徒の参加も増やしていきたい。 【協議】令和6年度 学校評価報告書について ・夏季福祉体験について社会福祉協議会としても協力していきたい。 ・体験させてもらった施設に対して、感想や感謝の言葉など、事業者に直接送るといいのではないか。 ・入船自治会会长として、通学の状況やイベントについてもよく知っている。多くのイベントに生徒のみなさんに参加していただきありがとうございました。 ・公民館まつりについても何名かご協力いただき、さらに次年度は大きくしていきたいと考えている。 ・PTAの方々により学校が支えられているという実感を持っていただく必要がある。 ・大学で学生支援をする立場から、本学も推薦・指定校に頼り定員を埋めている。簡単に入れた、簡単に辞める学生も多い。秦野曾屋から来た学生は頑張っている子が多いが、理系でも出だしてつまずく学生も多い。進路の出口として大学進学を確保したあたりから、さらに勉強をするよう伝えてほしい。 ・障害者申請に対する支援が義務化された。生徒に対して発信し、大学に是非相談してほしい。 ・卒業生も1万人を超え、人的ネットワークが広がっている。進路支援など、様々な面でサポートができるので活用してもらいたい。 ・子どもからの意見として、Wi-Fiについて繋がらない状況がある。 →校長より:・Wi-Fiに関して、全員が使用すると混雑により問題がおこる。通常の授業で通信の問題が起こってはいない。なにか課題があれば、県の対応になる。授業評価に関して、生徒による授業評価を行っている。一人ひとりのデータもあるため、個別の対応もできる。授業観察を行っており、その中の改善もしていく。昔よりも良くなっているという感覚があり、より良くしていくよう努力する。 ・トイレのポップアップテントについて、第2の防災拠点になることからも地域住民が利用することから、下水のことについても検討されているか、食料備蓄について確認したい。 →校長より:・本校は避難場所ではない。しかし、地域の人は一時的に秦野曾屋を使用する可能性がある。生徒のための防災設備はある。現在は地域の防災拠点としての責務を負っていない。体育館だけが大雨時に避難する施設として指定されている。(末広小学校が水害対応できないため。) ◎会長より:授業力推進重点校について ・深い学びの解釈を教員間で統一して取り組んでほしい。進路のことで秦野曾屋高校は一般受験は10人くらい。主体的対話的な深い学びをするにも基礎知識は必要。一般受験にも対応できる知識も育んだ上で取り組んでほしい。</p>

